

チュウダイサギ

Egretta modesta



分類	コウノトリ目 サギ科												
特徴	日本には本州、九州で繁殖し、冬はフィリピンなどに渡り、一部は日本にも残るチュウダイサギとよばれる比較的小型の亜種と、北の大陸で繁殖し、日本には冬鳥として渡来する大型の亜種(オオダイサギ)とがいる。												
生活	川、池、沼、干潟などで生活し、水の中をゆっくり歩いて餌を探す。コサギなどより脚が長いので、より深い水の穴かで餌場として利用することができる。餌を見つけると、S字形に曲げた首を瞬間的に伸ばして、くちばしではさみとる。魚が大きいと鋭く尖ったくちばしで突き刺して捕らえることが多い。アメリカザリガニなどもよく捕らえる												
声	繁殖地では「グー、ゴァー」と大声でやかましく鳴き立てる。特に隣の巣との間で起こる喧嘩や警戒時の声はやまかしい。雛は「ジャアジャア」とか「ジェッジェッ」と絶えず鳴き合っている。成鳥は繁殖期以外はほとんど鳴くことがない。												
見分け方	大形で首が長い。夏羽のくちばしは黒く、目先は緑青色。冬羽では、うちばしが黄色い。												
時期	(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
その他	産卵期は4～6月 全長(L)89cm 翼開長(W)130cm												
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥、川の生物図典													